

アメリカホームステイ

英会話教材作成のために

ポリテクカレッジ岐阜
(岐阜職業能力開発短期大学校)

小林 俊郎

1. はじめに

英語の授業で用いる会話例を生きたものにするために、実際に英語圏で会話が日常どのようにされるのか知りたかった。そこで過去、ニュージーランド¹⁾、シアトル(アメリカ)²⁾、ロサンゼルス(同)³⁾、イギリス⁴⁾、カナダ⁵⁾、サンフランシスコ(アメリカ)、オーストラリア⁶⁾と約4週間ホームステイしてきた。1996年にもロサンゼルスに4週間ずつホームステイする機会が得られたので、その概要を報告する。

2. コビーナ市

私はカリフォルニア州のコビーナ市にホームステイした。コビーナ市は、ロサンゼルス市より東に車で1時間の所にある。ロサンゼルス郊外にホームステイするのは、1990年に続いて2回目。コビーナ市の面積は17.6km²、人口は4.6万人(1996年)。市民の人種は白人が89%、ラテンアメリカ系が9%、その他2%。市民の平均年齢は30歳。

雇用分野は、製造業(25%)、サービス(23%)、貿易(23%)、金融(8%)、運送(8%)、建設(7%)、公務員(4%)、農業(2%)。家族の平均的な年収は270万円。

夏の平均気温は28℃、冬は22℃。滞在中(夏)、毎日、快晴。時々、午前11時まで曇りで、その後、快晴になる日もあった。1日の最高気温は39℃、最低は26℃。コビーナ市は、内陸性気候のために、海

洋性のロサンゼルス市より気温が約6℃高い。

3. ロンチェロス家

私は、ロンチェロス家に4週間お世話になった。家にはヒレックス^{*1}(72歳)がいるだけ。

彼は、イタリア生まれ。7歳のとき、両親とブラジルに移住。11歳から南米8カ国を一人旅。20~35歳まで、両親とペルーに住み、歯科医の免許を取得。35歳で結婚、渡米。一男一女を授かるが、46歳で離婚。彼は、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語、英語の4カ国語を話せる。長男(36)は、ゴルフのインストラクターだが、8年間、音信不通。長女(30)



住宅街(コビーナ)

は、演劇部門の大学を卒業後、現在、弁護士を目指して、別の大学に再入学し、1年生。

4. アメリカの毎日

4.1 家

ヒレックスは、アパートを借りていて、寝室、居間、食堂、台所、裏庭があり、家賃は月6万5000円。食費が2万円。光熱費が2万円。糖尿病、他の治療薬（6種類）が3万円。生活費として月に合計15万円必要。

彼は、若い頃は美術商として働き、小さいながらも画廊を持っていたとのこと。現在はアパート（6室）を所有しているが、生活費を稼ぐために、ここ数年は、メキシコやカナダまで、高級車の納車に行っている。1994年、1年間の納車のための走行距離は10万5000kmに達した。

彼の車は、日産製85年型式で、走行距離は22万km。ドアを閉めるときには「ボタンと閉めるな」と、口うるさく言う。窓ガラスが割れそうだからだ。また、車の前輪の軸に割れ目ができ、カーブ時に騒音がする。その修理費5万円が払えない、と言う。

4.2 食 事

朝食は、トーストと肉を混ぜたスクランブルエッグとコーヒー。ヒレックスは野菜が嫌いだということで、あまり野菜をとらない。夕食は、スパゲティ、パスタ、肉（鶏、豚、牛）などが出た。「土日は、料理をしたくない」ということで、一緒に外食をする。ファーストフード（セルフサービス）の店なら、飲み物つき350円で、腹一杯になる。コーラ等の炭酸飲料なら、何杯でもおかわり自由。レストランだと、チップ込みで500～900円で豪華な食事ができる。チップは食費の10～15%。

食料品店では、100gあたりステーキ用牛肉154円、ステーキ用鮭110円、鱒61円、エビ（中、黒）132円、鶏肉88～121円、ボンレスハム88円、ベーコン66円。牛乳（4 l）300円、オレンジジュース（1.9 l）で250円。

ガソリンは1 l 38円。映画は、週末でも午後6時



知り合いの家族（シーワールド）

前だと375円。それ以後は550円。

ヒレックスは、食事時、水道水ではなくミネラルウォーターを飲んでいる。ミネラルウォーターは4 lで50円。

4.3 離 婚

離婚率が高い。ヒレックスも結婚11年で離婚しているが、私の知人（48歳）も離婚の協議中だ。彼女は結婚30年、子どもが3人あり、孫も5人もいる。夫は若い頃から外で遊び、育児を手伝わす、家庭を省みなかった。彼女は、現在ある会社で働いていて、ここ1ヵ月、每晚2～3時間ほどしか睡眠をとっていない。現在の家は売却して、夫と分けるという。

私のもう1人の知人（女性60歳）は、再婚組だ。前夫とは、結婚20年目に離婚した。彼は、大酒飲みで、アルコール中毒だった。

私の友人（アメリカ人）が、4ヵ月前に、日本人女性と結婚したばかりだ。彼らは、2階建てのタウンハウス（長屋）に住んでいる。奥さんは元看護婦で、アメリカでも資格を取るために勉強中だ。

前述した知人（48歳）曰く、「国際結婚の方が普通の結婚より、結婚の維持が難しいとは思わない。日本人と結婚した3人の友人がいるが、いずれも結婚25年で平和な家庭を築いている。要は、夫婦の国籍が同じか違うかということより、2人がいかにお互いを思いやるかによる」



二重ロック（玄関）

4.4 治 安

ヒレックスは、家の戸締りを厳重にしていた。表玄関、勝手口とも二重ロックだ。居間の窓の網戸にも鍵フックがついている。夜寝るときは、居間の窓の引きガラス戸の片方に、木の棒を置き、たとえガラス戸の鍵をこじ開けても、ガラス戸が開かないようにしている。私と外出するときは、ヒレックスは彼の寝室のドアにも鍵をする。私の滞在中に、朝、すぐ前のアパートで2件の盗難が発生した。それ以後彼は、昼間でも、表玄関を開けて網戸のままにしておくことを禁止した。

ヒレックスの家の地区は、各家の前庭の芝生の管理をきちんとしている。この地区から離れた居住区には、メキシコ系移民が多く住んでいる。その地区では手入れが行き届かず、家の前庭の芝生が枯れている場合が多い。

ロサンゼルス市の「リトル東京」へ昼間行ったとき、そこから2ブロック西まで散策した。道路の周囲の多くのビルは廃虚で、歩道には多数の浮浪者がたむろしていた。私は恐しくなり、それ以上は、とても前に進めなかった。後で、ヒレックスにそのことを話すと「どうしてそんな所へ行ったのか。昨年はドイツ人1人と日本人1人の観光客が、そこを歩いていて殺された」と叱られた。廃虚のビル群は、倒産して売りに出しているものの、地価が高すぎて



二重ロック用木の棒（窓）

買手がつかない、ということだ。

ロサンゼルス空港では、知り合いの日本人の高校生が、紺のスーツを着た男に話しかけられた。高校生が日本での自分の住所を書き、1ドルをその男にやろうとしていたので、私が入り、それを止めさせた。彼らは男女3人組で、いずれもスーツを着、写真入りの身分証明書を首から下げていて、いかにも公の役人ふうだ。ぶ厚い書類を見せて、権威のある公式の団体に属していると言わぬばかりだ。文面にボランティアを書いているのが気になったが、私が「ノーサンキュー」と言うと、「これは、非常に重要なことだ。気をつけろよ」と脅した。空港に居合わせた知り合いのアメリカ人たちにこのことを話し、「どうしてここでは彼らを取り締まらないのか」と言うと、彼女らは、彼らを見て、「大統領選を2ヵ月後に控えているし、アメリカは言論の自由な国だから、取り締まれない」と言った。

空港では、「荷物の盗難に気をつけてください」と英語と日本語のアナウンスが、頻繁にあった。

4.5 老 後

アメリカでは、65歳以上になると国から6万5000円の年金が支給される。しかし老人ホームは、月に12万円から17万円かかる。ヒレックスは、彼が働けなくなったらどうなるだろうと深刻に悩んでいる。

4.6 麻 薬

前述した私の知人（60歳）の娘は、結婚後20年間麻薬を常用し、その子どもの世話も満足にできないそうだ。その知人の教会では、母親が麻薬に冒されたことなどで育児を怠り、その結果、自閉症など知恵遅れになった子どもたち（0～5歳）の幼稚園を併設している。その幼稚園費用の80%が州から、20%が親から支払われている。

また、近くの高校でも、麻薬を吸っている生徒が多いとのことだ。

5. 実際の会話例

5.1 タ 食

I : The pasta which you cooked was very delicious.

Felix : If you want more, there is more over there.

I : Can I drink the Cola in the refrigerator?

Felix : Go ahead. Be my guest.

私 : あなたが料理したパスタは、とてもおいしい。_____

ヒレックス : もしもっとほしければ、台所の向こうに、まだある。

私 : 冷蔵庫のコーラを飲んでもいいですか。

ヒレックス : どうぞ。ほしいものは、何でも食べてください。



矯正幼稚園

5.2 レストラン

I : What kind of bread is this?

Susan : It is sour dough.

Waitress : Would you like a refill of coffee?

I : Yes, please. _____

Susan : Could you give us seperate bill?

Waitress : Surely, sir.

私 : このパンの種類は何ですか。

スーザン : それは、サワードーといいます。

ウェイトレス : コーヒーのお代わりは、どうですか。

私 : はい。お願いします。

スーザン : 請求書を別々に作ってできませんか。

ウェイトレス : わかりました。もちろんです。

6. おわりに

通常の観光ツアーでは不可能な、アメリカの日常生活の一端に触れることができ、幸いだった。帰国後、学生にその話をしたところ、学生は刺激を受けたようだ。現実に2人の学生がヨーロッパへ旅行に行った。

今後も機会があれば、諸国にホームステイして、英語の自己研鑽に努めたい。

注

*1 : Ronceros Felix

* 英文中の 箇所 : アメリカでよく使われる表現

引用文献

- 1) 技能と技術, p.69 Vol. 24, 3 / 1989.
- 2) 技能と技術, p.73 Vol. 25, 5 / 1990.
- 3) 技能と技術, p.65 Vol. 26, 3 / 1991.
- 4) 技能と技術, p.61 Vol. 27, 1 / 1992.
- 5) 技能と技術, p.53 Vol. 30, 1 / 1995.
- 6) 技能と技術, p.59 Vol. 30, 6 / 1995.